

S S T K

社会福祉法人 埼玉のぞみの園

# 法人だより

No. 3

編集 埼玉のぞみの園法人本部 〒369-1105 深谷市本田 3343 編集責任者 理事長 山崎 勝  
発行 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒332-0011 川口市元郷 1-10-13

定価1部  
50円

本年度、期待されていた(仮)障害者総合福祉法は成立せず、障害者総合支援法へと方向付けが変わったが、これは基本的には、障害者自立支援法の修正であり、現状のサービスを如何に利用者本位のサービスに構築していくかが問われてくることになるだろう。

このことは、職員の専門性に一層期待するところであり、福祉職と言える知識と経験を積んで欲しいと思うとともに、公共の付託にこたえられるよう努力していく必要がある。

本年度、本法人では職員の高年齢化も進みつつある中、若年層の育成が大きな課題として表出されつつあるように感じる。

さらに、利用者から選ばれる魅力ある施設づくりを念頭に、現状からの脱却を試みる方策が必要と考える。

障害児者の地域移行・地域生活支援では相談支援体制を充実し、マネジメント機能を持たせるよう、その事業所の器量と信頼性が問われてくるのではないかと考える。また、経営実態等を踏まえた効率化・重点化が図られる、つまり施設の評価がそのまま経営に直結してくるものと推察している。

このような制度の移行期に当たり、法人及び職員各位には、変革の時を流されることなく、積極的な自己改革を進め、時代に対応した専門性を涵み取って

ほしいと思うとともに法人内部での連携を密にし、利用者・保護者の将来的な不安の軽減にも努力していく必要がある。

## ● 法人の理念

「人としての夢と希望を持ち、個人の能力を最大限に発揮し、生きがいある人生をつかむように支援します。」を基本に、

- ① 利用者に対等な関係に基づく支援
- ② 保護から自立に向けた支援
- ③ 潜在能力を引出し、発揮させる支援
- ④ 自由と責任の下、実態に応じた支援

以上のテーマに沿ったサービス提供・事業運営・職員育成を目指す。



## 平成24年度 福祉制度改定と法人事業

埼玉のぞみの園 理事長 山崎 勝

このコーナーでは、本年度から実施される制度改定と法人事業について、本年度事業計画書等から抜粋しました。

## 地域福祉研修会開催

― はぐくむ会様と共同で開催 ―  
法人本部 橋本 昌教

4月21日(土)にビックタートルにて、寄居町のはぐくむ会と共催の「第1回地域福祉研修会」が行われました。

今回の研修テーマは「考えよう！障害のある子どもの支援」。子育て・生活で困っていること・悩んでいること、そして誰に相談してよいかわからない「ご家族」。また、相談を受けたけど、どうアドバイスしたらよいかわからない支援者。この両者の悩みを少しでも解決したい。みんな話をする場所を作りたいとの思いからの開催です。

当日は、ご家族・支援者は又村あおい氏の講演・グループ討議、子どもたちはミニ運動会のようなイベントを行い、それぞれが有意義な時間を過ごしたようです。

又村氏の講演内容に「相談支援」がでてきましたが、その話



(受講者 45名以上が参加しました。)

を聞いたご家族の中には、「今まで自分一人で抱えていたことを相談できる場所ができるのは助かる・安心できる」などの声も聞かれ、今後の相談支援事業への期待が強く感じられました。

集まる場所・相談できる場所。この二つの場所がある。これがご家族・支援者にとり、安心して生活・仕事ができる環境作りとなる。また、これが地域福祉の向上につながっていくのではないかと考えさせられる研修でした。



ウフ！  
しあわせ！

### ● 祝 介護福祉士 合格

この度、次の方が介護福祉士試験に合格されました。おめでとうございます。

大澤富士子 (たんぼば作業所)

久保 泰 (つくし作業所)

今後の活躍をお祈りいたします。

【編集後記】 この号は今年度事業計画がテーマ。この法人だよりは今年度、年4回季刊の形で発行することを目指そう。季節ごとの移り変わりを感じ取れるほどの内容とはならないまでも、法人活動をお知らせできれば。ところでこの度PCを更新してもらったので調子が良くサクサクだ。映像も大変綺麗。機器は次々に発展向上するがそれを使う人間も向上しなければ。

【法人本部連絡先】 〒369-1105 深谷市本田 3343 番地 (電話) 048-594-6511 番 (FAX) 048-594-6512 番

- ★ 人事異動のお知らせ
- ★ 松本康男 ケアホーム 支援課長
- ★ 坂本弘道 第2春日園 課長補佐 (のぞみ課長補佐)
- ★ 笹間慶記 のぞみ 支援スタッフ
- ★ 田沼大輔 たんぼば作業所 支援課長

- ★ 春日園の 萩原正憲 職員
- ★ 新知香実 職員
- ★ 結婚おめでとう 幸せそうだなー

### ★ お知らせ

● 法人レクリエーションは平成24年6月9日(土)深谷ビックタートル。職員向け危機管理研修は平成24年7月14日(土)。

( )内は前職。

平成24年4月1日付で人事異動がありました。

# 機能低下に対応・授産収益挽回

春日園・第2春日園長 山崎 勝

老朽化した施設建物に対し、利用者の機能や設備など乖離している状況であり、今年度設立計画書を埼玉県に提出します。一方で現に居住する施設設備等も状況に応じて修繕します。

日中活動では、「障害が重くても働く」ということを大事に、漬物を継続した作業に育てます。機能訓練を希望するものが多くなってきた現状を鑑みて、日中活動メニューを工夫、創設していきます。



授産事業では、はる工房とトマトハウス事業の収益化を目指すとともに、減収の挽回するためにも企業等との連絡調整を密に努めます。就労移行では全員の企業実習をめざし、一人でも多くの一般雇用を進めます。

# 安心できる設備・援助技術向上

のぞみの園ホーム 松崎 春実

本年度は、入居者が安心して地域生活を継続できることを目指して、AEDの各ホーム設置と職員の救急救命講習の取得を図ります。

また、生活環境改善の為、空気清浄機（脱臭機能付き）の導入や1、2号館の固定布団干し

の設置を行う予定です。

支援職員も人数が多いので、共通の認識と援助が課題ではありますが、毎月の定例会を行うことで、助言や相談が行え、積極的に研修の参加を促して前向きに支援ができるように努めます。

# 法改正に対応、相談支援の充実

地域支援サービスのぞみ所長 大島 一哉

## 生活サポート事業

学校、病院等にパンフレットを置き利用者を獲得します。

## 移動支援事業

利用者の要望に幅広く応じられるよう、スタッフの調整、情報交換を密にし、改正法の施行に伴い柔軟に対応します。

## 児童デイサービス事業

統一した目的意識を持ち、継続的で適切な支援を行います。

法改正に伴い柔軟に対応します。住宅支援事業

## 住宅支援事業

利用者の獲得、重度の障害を持った方に対応できるように研修等を取り入れ、スタッフ個々の支援技術の向上を図ります。

## 相談支援事業

障害を持った方の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けての相談支援体制の充実を図ります。

# 事業を推進する原動力 !!

## 五人の課長・補佐

計画した事業を実際に進めるのは、第一線の現場を取り仕切る現場責任者。法人には課長と課長補佐の役職者が5人！ 事業の成否は彼らの双肩に掛かっています。彼らは今それぞれの立場で奮闘中。様々な困難を乗り越えて頑張れ中間管理職！

### ● 春日園 支援課長

くじら い しょう じ  
鯨 井 昭 二

春日園支援課は入寮者の24時間の生活全般を支援する。スタッフは夜勤専従者を含め14名。そのうち6割が経験3年以内という。法人勤務12年の鯨井課長だが現職は3年目。「自分も含め若手スタッフのスキルアップが今年最大の課題です」としみじみ語る。前向き、物腰柔らかで誠実、物事にじっくり取り組む粘り強い姿勢が印象的だ。家では一児の父。酒も甘い物も好きな両刀使い。月に10本は見るというDVD鑑賞が趣味。

# 支援スキル向上・作業の充実

深谷市立たんぽぽ作業所長 榎 澤 正 範

昨年度は外壁塗装やトイレ改修、またリフト車両の助成配備等と幾つかの環境が整備されつつある中で、今の時代に求められる施設を構築していくために、まず職員の質的研鑽の機会を増やします。生活介護事業では創造的かつ継続的な支援と、生活に密着したスキルの獲得を目的とした個別的なサービスの提供、就労継続事業では、タイ

ムレコーダーの導入等でメリハリのある作業を目指すと共に、長年の課題である作業のスリム化を図り、内職からの脱皮と農耕作業の栽培品目等を見直して内容を充実させ、利用者の工賃アップと社会参加の機会を増やしていきます。行事等では既存のものを踏襲しつつも、その内容を洗い直し、利用者が中心で楽しめるものとしていきます。

# 創意工夫で品質と生産の向上

妻沼つくし作業所長 鎌 田 仁 孝

多機能事業所として、一年が経ち試行錯誤の毎日でした。今年度は、そうした反省の中、毎日が楽しく、充実した日々が過ごせるよう創意工夫して行きます。

一方、作業面については、現在の他に新たな開拓も行ないます。また、農耕作業は、品質と

生産の向上を目指し、今年度もボランティアの方々との協力を得ながら、進めて行きたいと考えております。

地域の皆様に支えられて、二十五年が過ぎました。これからは、地域に還元出来る施設作りを目指して行きたいと思っております。

### ● のぞみの園ホーム 支援課長

まつ もと やす お  
松 本 康 男

間もなく勤続30年を迎える松本課長はこの4月から現職だが、たんぽぽ作業所で長く支援課長を務めた超ベテランだ。常に利用者個人に寄り添い、生活全般を勘案して最良のサービスを提供しようとする姿勢は昔も今も変わらない。「まだ何も分からなくて」と笑顔で語る人懐こい表情と、いつも明るい笑いを演出するユーモアあふれるトークは課長の真骨頂。気取らない性格と相まって相手に安心感と信頼感を与えている。

### ● 深谷市立たんぽぽ作業所 支援課長

た ぬま だい すけ  
田 沼 大 輔

春日園支援課勤務9年。几帳面で礼儀正しい田沼課長は、この4月から初めての課長職に就いた。「今は利用者を良く見る時期だと思っています」「まだ課長としての方針など語るもおこがましいです」と、いたって控えめだ。自分はO型。雑で面倒臭さがり屋。そこが弱みと思っているので努めて几帳面を保つようにしていると語る。外向内向の中間的な性格とのこと。物事の本質を見極めようとする深い眼差しも見える。

### ● 第2春日園 授産事業課長

まつ ば まさ え  
松 葉 正 枝

はる工房も含め18名のスタッフを抱える授産事業課。その要である松葉課長は、法人勤務17年のベテランだが、長く庶務畑に籍を置き現職は2年目だ。「毎日楽しく」をモットーに利用者の仕事の確保と工賃アップに日々取り組んでいる。体を動かすこと、野菜果物とドライブが好きな課長は、物事にこだわらないさっぱりした性格で社交的な行動派。誰とでも友人になれる明るく快活な性格は、若さを保つ秘訣なのかも。

### ● 第2春日園 授産事業課長補佐

さか もと ひろ みち  
坂 本 弘 道

今年4月から現職となった坂本補佐だが、法人勤務は19年というベテラン。奥様とは職場結婚だ。しかも支援課、授産課、地域生活支援と多彩な勤務経験もある。今年、将来の資格取得を目指し、家族と自分自身の為、根本的な生活習慣の改善を図りたいと語る。「自分の性格は悪い所しか思い浮かばない」と言うが、最近奥様と登山を始めた。大柄な体、一見ワイルドな印象の中に実直さが表れる家族思いのお父さんだ。